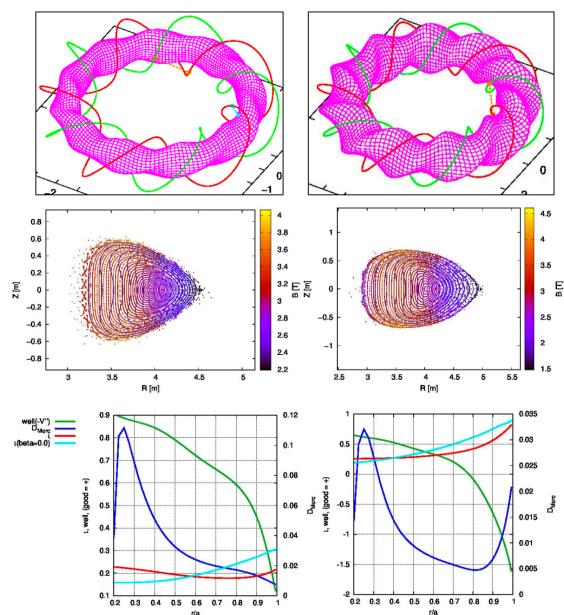


プラズマ・核融合学会誌

第101巻第8号

2025年8月

解 説	核融合周辺プラズマ模擬のための非等方イオン圧力プラズマ流体モデルの開発及び展望	東 郷 訓	299
小 特 集	密度汎関数法を用いた高温・高密度プラズマ研究の進展		
	1. はじめに	森田大樹	307
	2. タングステン中の空孔-水素原子クラスタ形成への応用	加藤太治, 野口湧喜	308
	3. 金ホーラムの状態計算とコード開発	荻津格	313
	4. WDM 物性研究における第一原理分子動力学計算	村山大輔, 大村訓史, 竹歳加偉, 尾崎典雅	317
	5. 光とグラフェンの相互作用の連結シミュレーション	蔵満康浩, 南卓海, 河合涼太郎, 大西直文, 矢花一浩	322
Plasma and Fusion Research 掲載論文アブストラクト			328
インフォメーション			329
	幅広いアプローチ活動だより (116)		
	【会議報告】第51回 European Physical Society Conference on Plasma Physics (EPS2025)		
	【人事公募】		
本 会 記 事			334
	プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部第29回支部大会		
編 集 後 記			



表紙の絵

ヘリカルコイルの巻き方を変えて様々な磁場配位を計算し、コイル形状のパラメータを入力としてそれらの配位のプラズマ閉じ込め指標をガウス過程回帰で予測する手法の原理実証を行った。図は上から順に訓練データから抽出した MHD 安定な磁場配位のコイル形状と最外殻磁気面、プラズマの Poincaré プロット図、Mercier 係数 (D_{Merc})・回転変換 (ζ)・磁気井戸 ($-V''$) のグラフである。左の列が体積の小さい配位、右の列が体積の大きい配位の一例である。同じ MHD 安定な配位でも特徴の異なる配位が現れている。(Sora YABUMOTO *et al.*, Plasma and Fusion Research, Vol. 20, 1403026 (2025) <https://www.jspf.or.jp/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が公益社団法人日本複製権センター(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません(社外頒布用の複写については許諾が必要です)。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 2F

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。